

平成 24 年 10 月 31 日

各 位

マ ネ ッ ク ス 証 券 株 式 会 社
代 表 取 締 役 社 長 C E O 松 本 大

「MONEX個人投資家サーベイ 2012年10月調査」

対外巨額買収に評価は分かれる

マネックス証券株式会社（以下「マネックス証券」）は、2009年10月より、マネックス証券に口座を保有する個人投資家を対象に、相場環境に対する意識調査を月次で実施しております。

このたび、2012年10月19日～22日にインターネットを通じて実施したアンケート調査1,083件の回答結果を報告書にまとめました。マネックス証券チーフ・ストラテジスト広木 隆の総括と併せてご活用ください。

【調査結果要約】

(1) 日本株および米国株DI^(注)は回復が一服、中国株DIは下げ止まらず

【日本株 DI】（2012年9月） 23 ポイント →（10月） 22 ポイント（前月比 -1 ポイント）

【米国株 DI】（2012年9月） 42 ポイント →（10月） 38 ポイント（前月比 -4 ポイント）

【中国株 DI】（2012年9月） -34 ポイント →（10月） -49 ポイント（前月比 -15 ポイント）

日本株および米国株 DI は 8 月、9 月と 2 ヶ月連続で上昇していましたが、伸びが一服した格好となりました。中国株 DI は下落トレンドが続いており、4 ヶ月連続で低下しています。今月の調査では前月比-15 ポイントの大幅下落となり、調査開始以来最低の水準を連続で更新しました。

（注）「上昇すると思う」と回答した%から「下落すると思う」と回答した%を引いたポイント。

(2) 自動車、機械、鉄鋼が下落し、銀行や不動産は堅調

「魅力的であると思う業種」ランキングで、「自動車」が 13 業種中、前月の 4 位から 9 位へと大きく順位を落としました。また、「機械」が 7 位から 8 位へ、「鉄鋼」が 12 位から 13 位へと順位を落としました。順位を上げたのは、「銀行」（9 位→7 位）、「不動産」（7 位→5 位）、「ハイテク」（5 位→4 位）、「電力・ガス」（13 位→12 位）の 4 業種でした。

(3) 今後 3 ヶ月程度の米ドル／円相場の見通しは円安の進行を素直に反映

日銀による追加緩和期待の高まりや、ソフトバンクによる米スプリント社の買収額が巨額だったことを受け、本調査が行われた週（10月15日週）の米ドル／円相場は 1 円 20 銭程度円安に振れました。これを反映し、今後 3 ヶ月程度の米ドル／円相場の見通しについて「円安を見込む」との回答が 50%と最も多く、前回調査から 15 ポイント増と大幅に増加しました。

(4) 個人投資家が注目するトピックは国内要因へ

日本の個人投資家の関心は前月と比較して米国、欧州、中国を含む新興国から日本国内にシフトしています。前月調査と選択肢の設定が若干異なるため正確な比較が難しいが、日本について聴取した6項目のうち、「政治・外交」が60.6%から59.5%へと微減、その他5項目はすべて上昇しました。

(5) ソフトバンクの巨額買収については評価が分かれる

今回の調査では、ソフトバンクの米スプリント買収について問う設問を追加しました。「評価する」との回答が42%だったのに対して、「評価しない」との回答は30%と、評価が分かれました。「評価する」と回答した理由としては、「挑戦的な姿勢を評価」「円高の恩恵を受けられる」「企業のグローバル化は必然」といった声が挙げられました。一方で、「評価しない」理由としては、「財務体質が脆弱になる」「米企業との相乗効果が不透明」「国内のサービス向上を優先すべき」といった意見が見られました。

調査結果の詳細は、添付の別紙レポートをご参照ください。

【お問合せ先】

マネックス証券株式会社
マーケティング部 PR 担当 町田・松崎 電話 03-4323-3800